

二宮小学校だより



にのみや学園
二宮町立二宮小学校学校だより
令和5年度第8号(2/29発行)

寒暖差が大きかった2月も終わりを迎えます。校庭のモクレンの花も開き始め、本格的な春の到来を感じる季節となりました。

2月は「1年間のまとめをしよう」の月目標のもとに生活してきました。前回の学校だよりでもお伝えしましたが、3月にかけて1年間を振り返り、どんなことを努力したのか、どんなことができるようになったのか、努力が少し足りなかったのはどんなところかなど、学習や生活のまとめをする、そして、新しい学年を意識し、どのような自分をめざすのかを考える、大変重みのある時期です。子どもたちは今、自分自身を見つめ、よりよくなるためにこれからどうしたらよいのかを考えています。



その自分を見つめる視点の一つである「あいさつ」ですが、朝のあいさつの少なさが大変気になっています。登校時の見守り活動をされている地域のボランティアの方や旗振りの保護者からも「最近、あいさつをする子どもが少ない」というご指摘をしばしばいただきます。あいさつの大切さを改めて伝えるとともに、習慣化できるよう粘り強く取り組んでいかなければとの思いを強くしています。児童委員会の子もたちも、毎朝昇降口に立ってあいさつ運動を継続して行っています。ご家庭でもあいさつの大切さについてふれていただき、子どもたちに習慣として身につくようご指導いただければと思います。

～「創立 150 周年」に迫る学習～

今年度、創立 150 周年をテーマとした学習に各学年が内容を考え、取り組みました。今回の学校だよりでは、最後の2学年、3年生と6年生の学習について紹介します。

○3年生 「二宮小学校の良さを伝えよう ～ 魅力を伝える記念祭を開こう～」

昔の二宮小学校と今の二宮小学校はどんなところが、どのように違うのでしょうか。また、どのように変わってきたのでしょうか。その一方で、昔からずっと変わらないものは何でしょうか。

3年生は、自分たちが知りたいと思った二宮小学校の一部分にスポットを当て、古い資料や昔のことが書かれている本を読んだり、古い写真を見たり、卒業生にインタビューをしたりして、その移り変わりを調べてきました。そこから、二宮小学校の長い歴史の中で積み重ねられてきた良さや伝統、改めて知った魅力がたくさんあることに気づきました。そして、それらを、クイズ、すごろく、神経衰弱などのゲーム、掲示物、映像資料などにわかりやすくまとめ、記念祭を開催し、校内のたくさんの人に良さや魅力を伝えました。

◎3年生がスポットを当てたテーマ

- ・昔の校舎（木造2階）や昔の教室のようす
- ・子どもの数のうつりかわり
- ・遊具の歴史
- ・校歌のたん生と歴史
- ・歴代の校長先生
- ・いちょうの木とくすのきの歴史
- ・二宮金次郎像の歴史
- ・駐車場の歴史（昔は飼育小屋があった）
- ・にのっと（二宮小のキャラクター）のたん生
- ・図書室のひみつ
- ・学校の倉庫のひみつ



「記念祭」でクイズやすごろくに挑戦

○6年生 「現代版 新二宮かるた」をつくろう

「町制 50 周年記念二宮かるた」(1985 年制作)から、かつての二宮町の様子を調べました。その結果、昔から変わらずに存在してきたもの、大切に語り継がれてきたものがある一方で、施設や観光名所、農産物、特産物など、かつては存在しなかったもの、新しくつくられたものがあることに気づきました。古くから伝えられてきたもの、語り継がれてきたものも大切ですし、また、変化し、発展していくことも大切です。その両面から、二宮町のすてきなところ、自慢できるところを考え、「現代版 新二宮かるた」を作りました。

◎「町制 50 周年記念二宮かるた」にも6年生による「現代版 新二宮かるた」にも登場する言葉（古くから伝えられてきたもの、語り継がれてきたもの）

- ・川勾神社(相模二宮)、吾妻山、ガラスのうさぎ、曾我兄弟、蘇峰堂、地引綱、夏祭り、盆踊り、百合、落花生

→ 6年生が考えたかるたの読み札

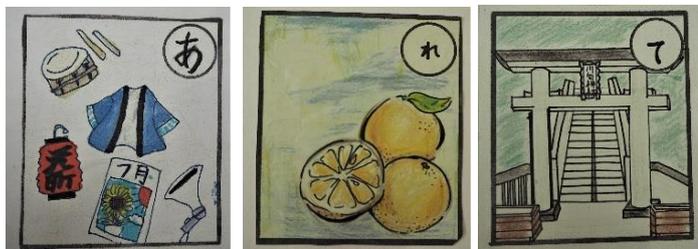
- ㊦ あふれる活気 にぎわう二宮 夏祭り
- ㊧ 戦争の つらさ伝える ガラスのうさぎ
- ㊨ 農業の 努力の結晶 落花生
- ㊩ 待ちわびた 梅の満開 蘇峰堂

◎6年生による「現代版 新二宮かるた」に登場する言葉で町制 50 周年時には存在しなかったもの

- ・ラディアン、せせらぎ公園、果樹公園、菜の花、湘南オリーブ、湘南ゴールド、地場産給食、ニーノとミーヤ

→ 6年生が考えたかるたの読み札

- ㊰ 光差し フルーツ輝く 果樹公園
- ㊱ 緑色 とってもきれいな 湘南オリーブ
- ㊲ レモンみたい 湘南ゴールド 甘酸っぱい
- ㊳ ロマンやな せせらぎの音 飛ぶホタル



～にの小チャンピオン～

今年度2回目となる二宮小学校伝統の「にの小チャンピオン」が、1月から2月にかけて行われました。前回（10月～11月）は、クラス対抗のドッジボール大会でしたが、今回は、3・4年ペアの部、2・5年ペアの部、1・6年ペアの部の3部に分かれてのリレーです。前回と同様に今回も、体育委員会の子どもたちが中心となって企画・運営をし、当日の進行、審判、記録、表彰も担いました。

毎回のことですが、この「にの小チャンピオン」が近づいてくると、学級で練習する風景が見られ、みんなで運動をするきっかけとなっています。当日は、応援も含め大変な盛り上がりを見せ

ました。どの子も次の走者に少しでも早くバトンを渡そうと全力をふりしぼっていました。中には、前の走者に声や身ぶりでも自分の位置を懸命に知らせている子もいました。そして今回は、異学年ペアでのリレーだったため、お互いに応援する姿、励ます姿、手助けする姿、声をかける姿があちらこちらで見られました。

リレーなので勝ち負けの結果が出ます。しかし、それ以上に、運動に親しむきっかけとなっていたこと、異学年のペアがお互いに交流を深め、協力して一つのことに取り組む場となっていたこと、そのことに価値があると改めて感じさせられました。



～にのみや学園プロジェクト 小中学校児童生徒交流会～

2月 22 日（水）、今年度最後となる3回目の「小中学校児童生徒交流会」が二宮中学校で行われました。今回の交流会は、6年生による部活動の体験でした。1回目の交流会（9月）では、中学生が部活動の練習に懸命に取り組む、集中して作業を進める様子を見学しましたが、今回は中学生と一緒に練習をしたり、作品を制作したりしました。

最初から最後まで1つの部活動に絞って体験している6年生もいましたし、短時間であってもいろいろな部活動を体験したいと考えている6年生もいました。しかし、どの部活動でも、体の動かし方や用具の使い方、音の出し方やデッサンの仕方などを中学生に丁寧に教えてもらいながら楽しそうに取り組む6年生の姿を見ることができました。

6年生にとって、ひと月後には中学校へ入学する時期となりました。9月、10月、2月の3回の交流会を通して、授業や部活動へのイメージをもち、希望、期待、楽しみ、そのような気持ちを携えて入学式を迎えることを望んでいます。

